

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造  
～学びつづける生徒の育成を目指して～

I 研究の内容

1. 主題設定の理由

本校では、一昨年まで「心豊かで主体的に活動する生徒の育成」という研究主題のもと、研究を進めてきた。甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり・集団づくり」に着目し、QU アンケートを活用した実践を行うなど、各学級のより良い集団作りと、集団としての質の向上を図ってきた。また、QU アンケートの活用を継続しながら、同プロジェクトの「授業づくり・授業改善」にも注目し、副主題を「集団作りと授業づくりの実践を通して」と設定し、集団作りと授業づくりの両面から研究を進め、学びあい支えあう学級集団を目指すことができた。

特に、授業と家庭学習の有機的な結びつきを目指して、帰りの会の前に「家庭学習スタンバイ」の時間を設定し、取り組んでいる。さらに、基礎学力の定着を目指したランクアップテストや定期テストでの取り組みの充実の他、生徒の主体的な学習への働きかけを継続することで、生徒の意識と学習習慣の定着に効果がでている。

本校は、平成30年度から3年間、県教育委員会から、「主体的・対話的で深い学び推進事業」の推進校の指定を受けた。これまでの研究の成果を生かしつつ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造に向けた研究を進めていき、2021年全面実施の新学習指導要領への円滑な移行と、それに先立つ適切な教育課程の編成を図り、確かな学力の向上が実現できるよう、本主題を設定した。

副主題である「学びつづける生徒の育成を目指して」には、生徒自らが新たな課題や興味を見つけ、その課題に主体的に取り組んでいくという意味が込められている。昨年度までは、生徒・教師それぞれの振り返りについて研究をしてきたが、今年度は、その振り返りから得た学びをもとに、学習の有機的なサイクルの確立を目指していく。また、学習活動の基盤となる学級づくりについても同時に研究を深めていく。

2. 研究の主な具体的取組内容

- ① 研究に向けた基礎学習
- ② 授業実践に向けた研究
  - 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫についての研究
  - 各教科等における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究
- ③ 先進校の事例研究
- ④ 研究内容及び成果の情報公開

- ⑤ 日常的な授業実践及び研究授業等に関わる評価の工夫
- ⑥ 甲州市確かな学力育成プロジェクトの成果の振り返り

## II. 研究の成果と課題

### 1. 成果

「主体的・対話的で深い学び推進事業」推進校の県指定を受け、最終年度の研究となった。今年度は特に、来年度からの新教育指導要領完全実施を前に、「指導と評価の一体化」「カリキュラムマネジメントを意識した年間指導計画」を中心に研究を行った。

「指導と評価の一体化」については、来年度から現行の4観点から3観点になることを見据え、評価をするタイミングや効果的な評価の方法について、事例をあげたり、授業公開を行いながら研究を深めることができた。また、評定の算出方法についても様々な方法を試行錯誤しながら考えることができた。

「カリキュラムマネジメントを意識した年間指導計画」については、現行の年間指導計画をもとにワークショップを行い、教育目標や本校に必要とするものは何かを考えながら、指導の中心となるものを全員で考え、来年につなげていくことを確認することができた。

また、授業研究においては、国語の授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための効果的なめあての提示方法やタイミング、グループ活動の方法、教具の選択や授業の形態について研究を深めることができた。

本年度はコロナ禍により、今まで通りのグループワークは困難であったため「自己との対話」を意識した授業展開を行った。例えば同じ質問を単元の最初と後半で行い、どのように自分の考えが変容したか、なぜそのように変わったかを考えることで、より自分に向き合うことができた。また、本校の中心的な活動である「家庭学習スタンバイ」の取組を充実させることで、自分に必要なことは何かを主体的に考えることができ、それが深い学びにつながった。

### 2. 課題

今年度は、来年度の新教育指導要領完全実施に向け研究を進めてきたが、特に評価の部分については、実際に実施されてから気付く面もあると思うので、継続して研究を進めていく必要を感じた。また、新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は、研究授業を公開することができなかった。大学の先生や、指導主事にアドバイスを頂いたが、さらに多くの方々からいろいろな考えを頂きながら研究を進めていくことが必要である。

また、ICTを効果的に授業の中で活用することや、オンラインでの授業についても研究を進めていくことが、これから先さらに必要になってくるのではないかと感じた。